



特集 みんな、集まる。 語る、矢板のコト。

「正解のない時代」と言われる中で、矢板市のまちづくりを進めていくには、行政だけではなく地域の皆さんも自分たちが住むまち、地域をどのような場所にしていくのか、明確なビジョンを持つことが必要とされています。

今年6月、世代を超えて地域に集い、地域の未来を語り合う新たな場所「矢板ふるさと支援センター TAKIBI」が完成します。

まちなかに灯る「焚き火」のように、地域の方たちが集い、火を囲んで語り合うような場づくりの支援に取り組むことで、未来につながる地域づくりを目指します。

今号では、「矢板ふるさと支援センター TAKIBI」、新たに着任した地域おこし協力隊員、集落支援員の方たちについて紹介します。

みんなが自然と集まり、語り合う場所を目指して

センター長
あいさつ



「矢板ふるさと支援センター TAKIBI」は、地域課題を経営的視点で解決に導くための「プロデュース」や「コーディネート」を目的に作られました。

第一歩目の活動として、「昔のように世代を超えて地域に集い、地域の未来を語り合う『場』をつくらう！世代を超えて地域がつながり、矢板市内各地に活動の灯をともしよう！」というコンセプトのもと、スタッフとして活動してくれる人材の募集を行い、地域おこし協力隊員3人と集落支援員2人が新たに着任しました。

TAKIBI という名前には、焚き火を灯すように「地域住民の心に灯をともしたい」、焚き火を囲むように「みんなが集まってくる場所でありたい」、焚き火に薪をくべるように「火を消さぬようみんなが主体性をもって行動してほしい」という思いが込められており、これから新たなメンバー5人と一緒に TAKIBI を盛り上げ、地域の皆さんの出番をたくさん作っていきたくと思っています。

また、市外の方たちにも矢板市を活動のフィールドとして選択してもらえるような「プロデュース」「コーディネート」を行ってまいります！！

地域おこし協力隊 兼
TAKIBI センター長 高橋 潔さん

新しく着任した 地域おこし協力隊員と集落支援員を 紹介します！

食の大切さを伝えたい！

自然が近くにある地域で暮らし、人と直接関われる接客業・宿泊業を営みたいと考え移住を検討していたところ、矢板市の地域おこし協力隊員の募集を知りました。もともとゲストハウスづくりに興味があったこともあり「地域とソトをつなげるゲストハウスをつくる」という活動内容に惹かれ、自分が描いている理想が叶えられると思い応募しました。活動の中で地域の方たちと関わりながら、「カフェandゲストハウス」をオープンさせて「地域とソトをつなげる」ことで、矢板市を盛り上げていきたいと思っています。

住んでまだ間もないですが、矢板市には表に出ていない魅力がたくさんあると感じていて、特に農業も盛んで地域に根付いています。イベントやワークショップなどをしてきた経験を活かし、「食」の大切さを伝えながら地域内外の方との交流を深めていきたいと考えています。

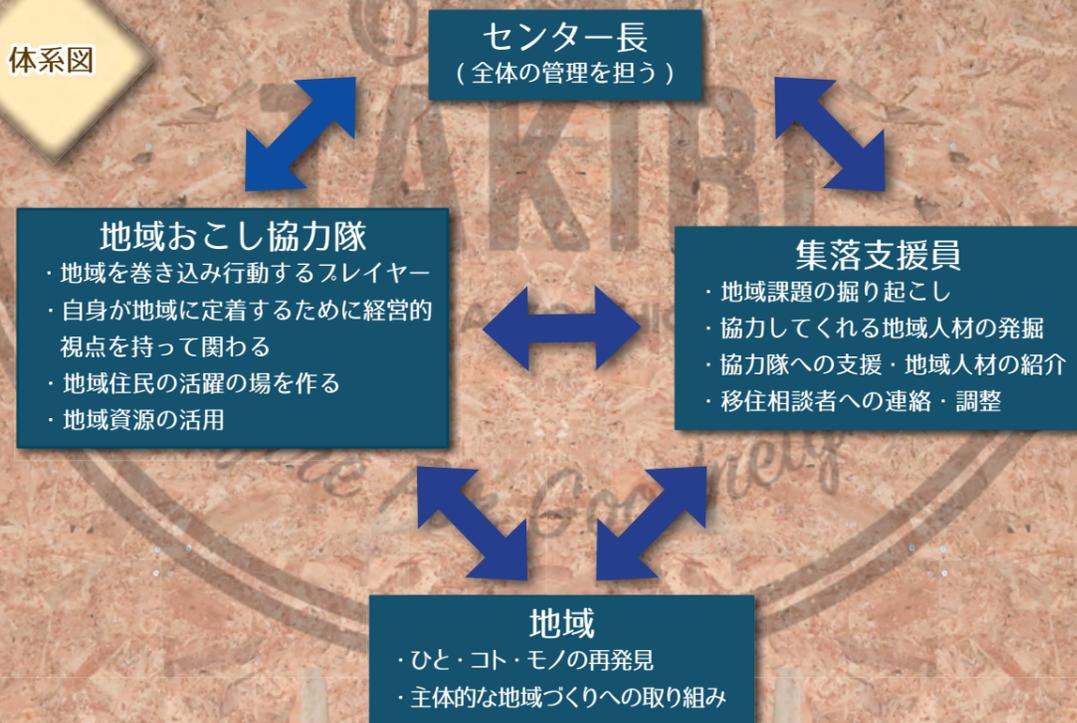


地域おこし協力隊
なおこ
進藤 尚子さん
東京都武蔵野市より移住

移住後も、テーブル抹茶教室を開催したり、婦人会の方と一緒にイベントの八方汁作りの準備をしたりと充実した毎日を送っています！



体系図



出産・産後ケアの充実を図りたい！

私は5人の子育てをしています。子どもを出産後、体調を崩してしまい、つらい思いをした経験がありました。

現代社会では、赤ちゃんを産むお母さんが誰にも頼ることができない環境が増えています。お母さんの不安は赤ちゃんにも影響してしまいます。出産を控え不安に思っている方、子育てをしている方が気軽に集い、お互いの経験を話し合える場所、産後に里帰り先がない「赤ちゃんとお母さん」を支える場所が地域には必要だと思っています。子育てが終わった先輩お母さんも交流の場に加わり、地域全体で子育てやその家族を支え合える場所「地域と赤ちゃんとお母さんをつなぐホストケアハウス」を作りたいと考えています。



地域おこし協力隊
あやの
山上 文乃さん
茨城県つくばみらい市より移住



子ども5人と共に矢板市へ移住してきました。自分も子育てをしながら、お母さんたちのサポートをしていけたらと思います！

農業はカッコイイと伝えたい!

生まれてから神奈川県、東京都などで過ごし、子どものころから田舎暮らしに憧れを持っていました。東京に住んでいる時、さまざまな地域のお米を食べましたが、息子が米農家である夫の実家のお米をおいしそうに食べている姿を見て、実家の後継者がいなくなるのは嫌だな...と思い、家族で夫の実家がある矢板市への移住を決断しました。

「個」としての農業ではなく「自分たちの住んでいる地域を良くするためにここで農業をするんだ!農業はカッコイイんだ!」と地域おこし協力隊員として多くの人に伝えていきたいです。夫と共に農家を継ぎ、いつかは「農カフェ」を開きたいと思っています。移住した私が、この地域に根付き新しいことを始めることで、新たに移住を検討している人たちの後押しができる存在になればいいなと思っています。



地域おこし協力隊
富川 素子さん
東京都目黒区より移住

4月から、夫は農業大学校へ入学し、3歳の息子は保育園に入園しました。家族3人それぞれが新しいスタートを切りました!



子どもたちが誇れるまちにしたい!

矢板市を盛り上げようと一生懸命活動している地域おこし協力隊員の活動を知る機会があり、その隊員の姿を見て一緒に活動したいと思い、今回集落支援員になりました。この5人のメンバーで活動してから約2カ月が経過しますが、移住して来てくれた隊員から、改めて矢板市の魅力やおもしろい話を聞くことができる毎日が楽しいです。

矢板市に生まれた子どもたちは、大学進学や就職を機に地元を離れ都会で生活することを選ぶ人が増えてきています。地域の人たちとものと力を合わせ、知恵を出し合い行動することで子どもたちが誇りに思い帰りたくなるまちに変えていければと思っています。

集落支援員 杉山 やすえさん



隊員と地域をつなぐ架け橋になりたい!

今まで、「コミュニティかたおか」編集委員の取材活動や公民館役員として地域行事に関わってきました。生まれ育ったまちのため、自分自身の経験を活かし何かお手伝いできればと思います集落支援員になることを決めました。矢板市出身の隊員もいますが、矢板市を好きになって市外から隊員となってくれる方が多くいます。地元をよく知る私たちが隊員と地域をつなぎ、一緒に矢板市を盛り上げていきたいと思っています。

くやま
集落支援員 久山 節子さん



みんなで作る みんなの居場所

まず与えられた任務は、TAKIBIの拠点となる場所づくり。拠点となるのは、旅館として使われていた一室です。地域おこし協力隊員、集落支援員、市内外の有志の手で新たな場所へと生まれ変わっていきました。



解体作業も自分たちの手で行いました。畳を外し、天井を壊し、押入れを壊し...、ごみを何度も軽トラに乗せて処理施設に運搬しました。それが終わると、塗装作業の始まりです。地域の職人、友人、高校生たちに手伝ってもらい壁や天井を塗り直しました。



4mの長テーブルづくりでは市内の高校生も参加してDIY作業を行いました。テーブルだけでなく、床板貼り、扉のリメイク、スケジュールボードなど、とにかく自分たちで作れるものは作りました。今は安い値段で気に入ったものを手に入れることもできますが、頭をひねってアイデアを出し、汗をかいて作った物の方が、愛着がわきこれからの活動も楽しくなると思ったからです。約3カ月間、DIYをする中で素人だったとは思えないほど、上達しました。



矢板ふるさと支援センター TAKIBI

開所/月曜日から金曜日
10:00~16:00

住所/矢板市扇町一丁目11-30
(旧大國屋旅館、現ござれや1F奥)

MAIL / info@takibiz.com

Facebookは
こちらから



… 対談 … TAKIBI のこれから



…矢板で暮らしてみても…

高橋 みなさん矢板市に移住して数カ月が経ちますが、住んでみていかがですか？

進藤 住んでみて改めて良い場所だと思いましたね。先日の軽トラ市のにぎわいにも驚きました。これからのイベントも楽しみです。

いつも「道の駅やいた」で買い物をしているのですが、どの商品もおいしいです。色んな農家さんのお米を食べ比べていますが、優劣つけがたいくらいどれもおいしいですね。

富川 私も道の駅で野菜を買い、食べ忘れてしまったものがあつたのですが、数日経っても傷みがありませんでした。新鮮な野菜が売られているのだと感じましたね。

山上 私はグルメマップを見て、お昼を食べる場所を決めるのが毎日の楽しみです。料理がおいしいのはもちろん、お店の方と仲良くなる大切な時間です。

進藤 矢板市には良いものがあふれていると思います。どの地域もそうだと思うのですが、日常となってしまうものに住んで



いる方は気づきにくいですが、市外から来た私たち目線で見つけた魅力を、どんどん伝えていけたらと思っています。

…拠点を作ってみても…

高橋 拠点づくり本当にお疲れさまでした。みなさんのがんばりで、こんなにも素敵な場所ができました。自分たちが作ったことで愛着もわきますよね。

進藤 拠点づくりと聞いてはいましたが、まさかつなぎを着て解体作業からやるとは思ってもいせんでした。でも、心地よい疲労感の中、毎日ぐっすり寝ることができ、長年の肩こりも取れました！

高橋 市外からも手伝いに来てくれた方もいて、うれしかったですよね。

山上 栃木市の地域おこし協力隊員やその隊員の紹介を受けた宇都宮市に住んでいる方も壁塗りを手伝いに来てくれました。私の友人も子どもを連れて鹿沼市から手伝いに来てくれ、壁塗りを親子で楽しくやっていました。

富川 GW中には、友人も東京から来てくれ、入口の階段を作ってくれました。

高橋 手伝いに来てくれた方にとっても特別な場所となればいいですね。ちなみに、みなさんのお気に入りポイントはどこですか？

進藤 窓際にあるカウンターです



ね。障子の枠をリメイクした窓枠もお気に入りです。山上さんのアイデアなんです。

山上 障子の枠だけではサイズが足りなかったの、板を足してサイズを調節しました。



富川 扉も余った廃材をボンドで張り付けてお洒落にリメイクしました。まだまだ未完成な部分も多いので「協力するよ！」と手を挙げてくれる方がいたらうれしいです。特にトイレやキッチンがまだなので優先的に作っていきたくいですね。ただ、資金面が厳しいので、排水工事ができる方や不要になったキッチンなど譲ってくれる方がいると助かります。

山上 駐車場が少ないのも課題ですね。近隣の方で駐車場として土地を使わせていただける方も探しています。

…今後の活動…

高橋 これから始まるTAKIBIの活動ですが、この場所をどのようなようにしていきたいですか？

山上 地域の方たちのチャレンジスペースとして活用していきたいです。さまざまな人が集まるこの場所で、出会った人たち同士でコラボレーションして、新しいものを生み出すことができたら面白いですね。



富川 私は将来的には農業をやりながら、「農カフェ」を開きたいと考えています。TAKIBIで活動し、たくさんの人と出会う中で方向性を探り、矢板市に合ったお店をオープンさせたいです。

進藤 活動が軌道に乗ったら、「シェアカフェ」をやりたいです。お店を開きたいと思っている人やカフェに興味がある学生がお金のやり繰りや接客を学べる場所になればいいと思います。

富川 矢板市の工場できざまな国籍の人が働いていることも知りました。そのような人たちが、母国の料理を振る舞ってくれる場所になれば幅も広がり面白いカフェができるのではないかと思います。たくさんの人を呼び込んでみんなの場所にしていきたいです。

進藤 矢板市にはまだまだ面白い人、心に熱いものを秘めている人が多くいる気がします。そんな隠れた「人財」を私たちが引っ張り上げ背中を押していけたらと思います。

高橋 地域を歩き、人を知り、人脈作りを行い、最終的には3人がそれぞれ矢板、泉、片岡地区で拠点がつくれるようにセンター長として私もサポートしていきたいです。

…集落支援員の存在…

高橋 2人の集落支援員は、どのような存在ですか？

富川 本当に頼もしい存在で、一緒に戦う心強い仲間です。杉山さんは、住宅リフォームを学んでいて、久山さんも、過去に塗装の現場手伝いの経験があるので、拠点づくりの際は、指導者として力を発揮してくれました。また、2人は、移住して来た私たちに矢板市のことをたくさん教えてくれる心強いサポーターでもあります。



山上 ワークショップを開催したときも、私たちはまだまだ知り合いが少なく人集めに困っていたところ、知り合いが多い2人が市内にチラシを配ってくれたのですが、あつという間に情報が広がってきました。配るだけでなく、私たちの人物像も伝えてくれました。

…活動への意気込み…

高橋 地域おこし協力隊員としての任期は3年ですが、これから矢板市で活動していく意気込みを教えてください。

富川 気張らず気負わず自分のペースで活動をしていきたいと思っています。3年の任期ではありますが、みんなで楽しく活動していけたらと思います。

山上 地域おこし協力隊員の前に5児の母でもあるので、子育ての余力を残しつつ活動していきたいです。自分の経験や特徴を生かして、地域の方を巻き込みながら矢板市を盛り上げていきたいです。

進藤 拠点となるこの場所ができてやっとならから始まるんだなとワクワクしています。私の活動のテーマは「食」ですが、どの分野

においても地域の方たちと一緒に楽しみながら暮らしていきたいと思っています。

高橋 見てくださいよ、みなさんの話を近くで聞いていた久山さんが泣いてますよ。

富川 心があつたかい人たちがばかりなんですよ。



山上 まずは地域の方たちに私たちのことを知ってもらう必要があると感じています。6月にこの場所のお披露目会があります。その際、私たちの今後の活動計画をお伝えする機会もあるので、多くの方に参加していただき、少しでも私たち地域おこし協力隊員のことを知ってもらえればうれしいです。

高橋 そうですね。これから、いろいろな人たちとつながり矢板を元気にしていきましょう！



まちなか拠点の開設および地域おこし協力隊活動方針発表会

日時 / 6月17日(月) 13:30~
場所 / 矢板ふるさと支援センター TAKIBI (矢板市扇町一丁目11-30)
そのほか / 駐車場はありませんので、近隣の駐車場をご利用ください。
問い合わせ / 総合政策課 ☎(43)1112